

ロンドンオリンピックから学んだこと

校長 中川 豊 巳

長い夏休みも終わり、日本語学校では2学期が、そして現地校では新学期がスタートしました。夏休みにはできないことをいろいろ体験できたのではないかと思います。この夏、最も印象に残ったことは何だったでしょうか。今年から、すぐに落ち着いた雰囲気です。授業に入られるよう、2学期の始業式は行わないことにしましたが、その分、各クラスで過ごす時間の確保ができています。ぜひ、それぞれのクラスで、この長かった夏休みの体験を語り合い、世界を広げてみてください。

さて、皆さんもご存知の通り今年の夏はロンドンでオリンピックが開催されました。ここアメリカのメダル獲得数は、金メダルが46個、金銀銅あわせて104個と世界ナンバーワンでした。金メダルを獲得した女子体操選手の中に、地元ニューダム出身のアレクサンドラ・アリー・レイズマン選手もいましたね。一方、日本のメダル獲得数はどうだったかというと、金メダル7個、金銀銅あわせて38個と、アメリカに比べてかなり少ないように思われますが、これでも日本としては過去最多のメダル獲得数を記録しました。38個というのは、世界で6番目にあたります。



メダルに及ばなかった選手たちも、本当にたくさんの感動を与えてくれました。メダルが獲得できるかどうかは、様々な要因がありますので、必ずしも努力をしたからといって、必ず獲得できるというものではありません。組み合わせや天候、運も大きく左右し、残念ながら努力が報われなかったケースもたくさんあったのではないかと思います。しかしながら、一つ言えることは、メダルを獲得した人は、必ず想像できないほどの努力をしてきた人だということです。努力をせずに、運だけでオリンピックのような大きな大会でメダルを獲得できる人など存在しません。自分に負けずに、努力した者だけに、その努力が報われるチャンスが与えられるわけです。

ロンドンオリンピックの特集記事の中に、とても印象に残ったコメントがあったので紹介したいと思います。それはジャマイカのウサイン・ボルト選手の練習風景についてのコメントです。彼は、陸上競技100メートル、200メートル、400メートルリレーの3種目で、4年前の北京オリンピックに続き2大会連続で3冠を達成しました。そのコメントの内容は次のようなものでした。



「死ぬほどキツイ練習をずっと繰り返し行っている姿を見て驚きました。金メダルをいとも簡単にしとめたように見えるけど違うんだ！才能がある人っていうのは、単に生まれつきの恵まれた才能があるっていうのではなく、その才能を生かすための努力を惜しまない人のことを言うんだなあ。」

ボルト選手のパフォーマンスは一見派手で、ふざけているように見えますが、そんな彼も、応援してくれる世界中の人の期待に応えるために、死ぬほどきつい練習に取り組んできたわけです。オリンピックは4年に一度しかありませんので、前回のオリンピックから4年間、絶え間ない努力をし続けてきたのです。金メダル獲得の裏には、実はこうした血のにじむような努力がありました。彼のこのような努力は、ジャマイカのチームメイトにも大きな影響を与えていたに違いありません。その結果として、ジャマイカチームは、400メートルリレーで史上初めて37秒台の壁を突破する36秒84という世界記録を出しました。これは、ボルト選手一人だけでは達成することはできなかった驚異的な記録ですが、ボルト選手の努力する姿に触発されて、チーム全体のレベルが上がったのではないのでしょうか。



ロンドンオリンピックに関して他にもたくさんの素晴らしい話が報じられていますが、このオリンピックを通して、「努力することの大切さ」や「最後まであきらめない姿勢の大切さ」を学ぶことができました。ぜひ皆さんも、夢や目標に向かって努力を惜しまない人であってください。すぐには期待通りの結果に結びつかないかもしれませんが、「結果を出している人は必ず努力をしている」ということを忘れずに、途中で投げ捨てることなく、最後まで頑張り抜く姿勢を大切にしてほしいと思います。そして、ウサイン・ボルト選手のように、周りのみんなにもプラスの影響を与えられるような存在であってほしいと思います。

皆さんの2学期の活躍を期待しています。